6　1 Day for Others（1 日社会貢献プログラム）

2011 年度よりスタートし、2020 年度にて節目の 10 年目を迎えた「1 Day for Others」であるが、新型コロナウイルスの影響で例年どおりのプログラムを実施することが出来なかった。学生たちが「1 Day for Others」の「キャンパスを飛び出して、その一日、新しいことを知る、見る、行動してみよう」というコンセプトである「キャンパスから飛び出す」ことは疎か、感染のリスクを避けるため「キャンパスに来る」ことが、特に春学期中は大きく制限された。

秋学期に入って一部授業は対面で実施されたものの、ボランティアセンターとしても対面でのボランティア活動については、リスクを防ぐため、やむなく活動自粛の継続を要請した。そのうえで「1 Day for Others」も春学期は「全面中止」とし、秋学期は一部のプログラムのみ限定的に「オンライン」でのプログラムを開催することとなった。完全オンラインでのプログラムの実施は、10 年続く「1 Day for Others」の歴史の中でも初めての試みであったが、受入先の皆様のご尽力により、10 のプログラムを実施することができ、延べ 115 名の学生がプログラムに参加した。まずはお受入いただいた団体の方々に感謝申し上げたい。

プログラム内容は、これまでの体験を伴う活動中心のプログラムというよりは、社会課題を知り、参加者同士で考え学ぶ、座学やグループディスカッション形式のプログラムが多くなったことが特徴である。特に環境や福祉の分野を中心に参加学生の活発な議論が広げられた。あるプログラムでは、課題に対してより深く継続的に考え、アクションを起こしたいという想いから、参加学生の中の一部で、学生団体を発足させて学内での活動をスタートした事例もうまれ、学生の社会課題への意識やボランティア活動に対する意欲の高さを感じることができた。

また、岐阜県下呂市の障がい者当事者団体「ホープフルハーツ」および障がい者支援団体「益田どんぐりの会」と協働したプログラム実施も、2020 年度の特筆すべき点として挙げられる。「1Day」という一日という制約の中でのプログラムを本学のキャンパスを有する東京都、神奈川県および、それに隣接する埼玉県、千葉県のいわゆる 1 都 3 県以外の団体と行うことは、今までの対面でのプログラム実施では、現実的ではなかったが、上述の岐阜県の団体とのプログラムの実現は、オンラインシステム活用の賜物であり、大きな成果であろう。

新型コロナウイルスの感染収束が見込まれない中で、受入先団体のニーズに関わらず、ボランティア活動には多くの制限がかかっており、社会課題と出会う機会が極端に少なくなってしまったが、岐阜県の団体との交流プログラムは、新たなプログラムを開発していく上での大きなヒントになった。一方で、対面での活動でしか味わうことのできない、リアルな人と人との関わりや現場の臨場感があることも事実である。対面でのプログラムが段階的にでも再開することができた場合に向けて、参加者への注意喚起の徹底方法の確立や独自のガイドラインの作成などの体制づくりが急務である。

2021 年度も春学期は引き続き、オンラインでのプログラム実施を継続することが決定して

いる。オンラインという新たな形式の発掘は、今後の「1 Day for Others」が学生にとって、多様な選択を生み出し、更なるボランティア活動においての意欲の向上につながるツールであるという可能性も感じることができた。今まで凡そ右肩上がりであった「1Day for Others」の参加者とプログラム数が激減してしまった 2020 年度ではあったが、上述のとおり、多くの収穫もあった。with コロナの状況は今後も続くことが予測されるが、収穫や教訓をいかしながら、2021 年度のプログラム運営に注力していきたい。

（職員　青木洋治）

◆オンライン講座で学ぶ「やりたいことみつける！ボランティアのい・ろ・は」

受入団体	とつか区民活動センター
実施日	2020 年 10 月 10 日(土)　10:00-11:30
参加学生	8 名(1 年生 8 名)
実施概要	戸塚区の市民活動・生涯学習活動・ボランティア活動などの拠点として地域の活動をサポートしているとつか区民活動センターの専門スタッフより、ボランティア活動の大切な基礎知識について、学び、参加者同士で自らの経験や活動などを話し合い、自分たちにできる活動を考えた。
参加者の声	今回の講座で、活動を長く続けるためのコツとして、相手への思いやりと、自分が活動を楽しむことが紹介されて、納得しました。また、自分が楽しむことだけでなく、安全性を第一に、自分のできないことははっきり言うことも重要だと感じました。今後は、地域に根付いた活動を始めてみたいです。様々な種類の活動が写真とともに紹介されていましたが、どれもご高齢の方が多いと感じたので、その活動を長く続けていくためには、大学生もかかわっていくべきだと感じました。(社会福祉学科 1 年)

◆対話 Open Dialogue ～学びと実践のボランティア～

受入団体	ボラチャレ団体 18psychology
実施日	2020 年 11 月 22 日(日)　9:00-13:00
参加学生	10 名(1 年生 5 名、3 年生 4 名、4 年生 1 名)
実施概要	ボランティアチャレンジ団体「18psychology」の企画プログラム。ボランティア経験の有無に関係なく、参加者自身が今後のボランティア実践について深く考え、それを表現する場を作った。まず、発達障害児支援、海外にルーツを持つ子どもの教育支援、精神障害者支援のボランティアを行なってきた学生たちの話を聞き、ボランティア活動による学びについて考えた。その話しを手がかりに参加者各自が行いたいボランティアを、対話を通して考えた。最後に、ボランティアや人との関わりにおいて大切な傾聴や対話の心構えについて、専門家である講師にお話しいただき、参加者同士で傾聴を体験しながら学びを深めた。
参加者の声	・対話や傾聴について、興味・関心のある同世代がこんなにもいたこと

	が驚きでもあり、嬉しかったです。また、人にはそれぞれのバックグラウンドがあり、そうした色々な思いを大切に、対等に、コミュニケーションするのが、対話であることを学びました。(参加者アンケートより抜粋) ・相手の意見を受け入れることばかりに集中して自分の考えを失ってしまわないようにすることも大切であると学んだ。また、年齢や性別に関係なく対等な立場で話し合える仲間がいるということが、普段生きている中でなかなかないことであり、かつとても大切であることがわかった。(参加者アンケートより抜粋)

◆Remake your clothes! 思い出の洋服をエコバッグへ

受入団体	一般社団法人　グリーンピース・ジャパン
実施日	2020 年 11 月 28 日(土)　13:00-17:00
参加学生	13 名(1 年生 3 名、2 年生 8 名、3 年生 2 名)
実施概要	ファストファッションに関わる環境問題について学び、テーマに基づいてグループでディスカッションし、話したことを発表した。その後、参加者各自が用意した古着でバッグを作りながら、ファストファッションと環境問題について現状や課題を学んだ。
参加者の声 サポート学生	このイベントを通して、社会問題に関心を持ってもらうには、やはり実際に楽しんで参加してもらい問題について学んでもらうことで「自分事化」することが必要であると感じました。社会問題を自分の生活に落とし込んで考えてもらい、今後の生活に繋げてもらえるようにするということを重視し、イベントを作り上げました。企画の段階から、あくまでも“楽しみながら”、自分の身の回りの生活を見直すきっかけになればという思いで実行できたため、かなりの達成感があります。開催した側もたくさんの気づきを得ることができる 1 Day プログラムに携われたことは貴重な経験となりました。(国際学科 3 年)

◆SDGs から学ぶボルネオ島の環境問題

受入団体	特定非営利活動法人　ボルネオ保全トラスト・ジャパン
実施日	2020 年 12 月 2 日(水)　13:30-15:00
参加学生	19 名(1 年生 8 名、2 年生 9 名、3 年生 1 名、4 年生 1 名)
実施概要	最初に SDGs が提唱された経緯や背景についての講義があり、その後、ボルネオ島における環境問題と私たちの生活との関係性や SDGs の掲げるゴールと社会のあり方を参加者で考えた。またボルネオ保全トラストジャパンの活動について聞き、NPO や国際協力について学んだ。
参加者の声	・今まで環境問題が世界で騒がれていることは知っていたけれど、自分からこうして積極的に情報収集することをしていなかった。実際に活動を始めるにはまだ至らない点が沢山あるので、環境問題の知識を更に身につけたり、進んで環境に優しいものを購入するなど今できる小さいことからやっていこうと思う。(参加者アンケートより抜粋) ・一見緑豊かに見える土地でも、その緑がプランテーションによって造られた緑であったら、自然ではないということを学びました。緑だと、なんだか環境に良さそうと感じてしまいがちですが、環境を破壊する緑があるということに気付きました。(参加者アンケートより抜粋)

森林開発の犠牲になるオランウータン

◆SDGs をテーマにゲームやクイズで小学生と遊ぼう！

受入団体	社会福祉法人　興望館
実施日	2020 年 12 月 8 日(火)　15:20-17:30
参加学生	4 名(1 年生 1 名、2 年生 1 名、3 年生 2 名)
実施概要	明治学院大学横浜校舎のコラボルームの大画面を使って、学童クラブの子どもたち（主に小学 3 年生）とオンラインでつなぎ、共に遊びながら学べるプログラムを企画し実施した。参加者の自己紹介や特技披露のあと、SDGs に関連するクイズをして交流を深めた。
参加者の声 サポート学生	興望館との 1 Day for Others 企画を通して、ボランティアにおける目的、目標に対するアプローチは 1 つではないことを実証できたのでは無いかと考えます。この企画のような交流を目的としたイベントだと、オンライン上でのコミュニケーションのみでは熱意や伝えたい思いが相手に伝わらないと考えられることが多いですが、当日の子供たちが楽しんで参加してくれている様子から、私達の「相手を楽しませたい」という思いは伝わったのではないかと感じました。一方で、子供たちと 1 度も会わずに企画を考えなければいけなかったこと、子供たちのサポートを直接できなかったことなど、オンラインならではの難しさも実感しました。（国際学科 3 年）

興望館の子どもたちと大画面でつながる

大画面に向かって自己紹介をする学生たち

◆命のボランティア講座

受入団体	神奈川県赤十字血液センター
実施日	2020 年 12 月 12 日(土)　10:00-11:40
参加学生	17 名(1 年生 10 名、2 年生 7 名)
実施概要	神奈川県赤十字血液センターより、「命のボランティア講座」として、赤十字社の重要な活動である「献血」についてオンラインでお話をいただいた。参加者は、献血について知識を身につけた後、グループワークを通して、献血に関する質問や意見を出し合い、若年層の献血機会向上のためにできることについて考え、発表した。
参加者の声	このプログラムに参加していた人たちの多くがもう既に献血を行っていたり、献血ルームに行ったことのある人たちであった。私は自分の日々の生活を考えるだけで精一杯となっているが、他の人は献血を必要としている人のことを考え、自分の血液や時間を奉仕していて、その行動力に驚いた。また実際に献血によって救われた人の話を聞いて、献血の必要性をより実感することができた。献血の使用期限は短く、常に新しいものが必要であるなど、知っておかなくてはいけないことを学ぶことができた。（法律学科 2 年）

Twitter で参加者を募集

◆「割り箸」ってエコなの！？日本の森林を考えるきっかけを

受入団体	認定特定非営利活動法人 JUON NETWORK（樹恩ネットワーク）
実施日	2021 年 2 月 5 日(金)　15:00-17:00
参加学生	14 名(1 年生 5 名、2 年生 8 名、4 年生 1 名)
実施概要	JUON NETWORK 事務局長より、JUON NETWORK の組織や活動について講義いただいた。その後、事業のひとつであり、本学横浜生協でも使用されている「樹恩割り箸」について、その認知度向上のためにできることをグループワークを通して考え、提案を行った。
参加者の声 サポート学生	環境問題が深刻化し「環境問題への取り組み」が求められる中、それを理解しつつも今ひとつ身近に感じられずにいました。しかし、今回のプログラムを通して、JUON NETWORK さんという存在があること、なにより明学の食堂で国産材で作られた樹恩割り箸が取り入れられていることを知り、抽象的だった「環境への取り組み」を身近なものと捉え、具体性を持たせることができました。また、樹恩割り箸についての知識を深めるだけでなく、その知識や樹恩割り箸の存在を周囲に広めるための企画の考案を通し、「環境への取り組み」の第一歩を踏み出せた経験はとても貴重なものでした。この経験を無駄にせず、自分なりに「環境への取り組み」をしていきたいです。(心理学科 2 年)

JUON の「J」を指文字で作って記念写真

横浜校舎学食で使用している「樹恩」割り箸

◆Let's フェアトレード！フェアトレードとまちづくり

受入団体	逗子フェアトレードタウンの会
実施日	2021 年 2 月 25 日(木)　15:00-17:00
参加学生	14 名(1 年生 5 名、2 年生 5 名、3 年生 4 名)
実施概要	初めに、「この T シャツはどこから来るの？」というワークショップ教材をオンラインで実施し、児童労働による生産の現場と消費者である私たちとのつながりを体験し、複雑な流通の仕組みを学んだ。 その後、逗子フェアトレードタウンの会の活動についての話を通して、フェアトレードによるまちづくりの事例を学び、後半は、グループごとに、大学生として取り組めるフェアトレードの実践を考えた。
参加者の声 サポート学生	2 月初旬にフェアトレードに関するイベントの制作をボランティアセンターから提案していただき 2 月 25 日にイベントを開催しました。一ヶ月間という短い期間の中でいかにプログラムの内容を充実させ、参加者がコロナ禍の中でできる限り実践的に近い形でフェアトレードを学べる環境を作るか試行錯誤しました。 当日は、フェアトレードと児童労働を考えるロールプレイや大学生のできるフェアトレードをディスカッションしました。イベントを終え、一参加者としてこのイベントを作り上げることができ大変貴重な経験ができました。プロジェクトリーダーとしてイベントを携わることができ、ボランティアセンターはじめ参加者の皆さんに感謝いたします。（国際経営学科 2 年）

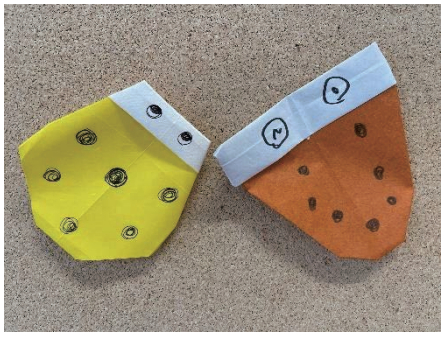
逗子フェアトレードタウンの会の活動紹介

◆サクラサケ！オンラインでつながる交流の輪

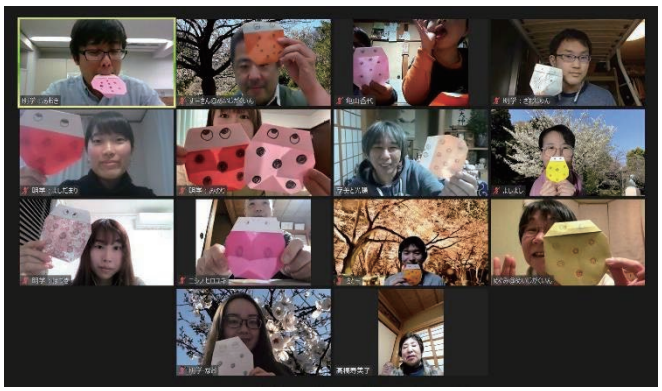
《第 1 回》地域での障がい者支援を知る

《第 2 回》お花見交流会

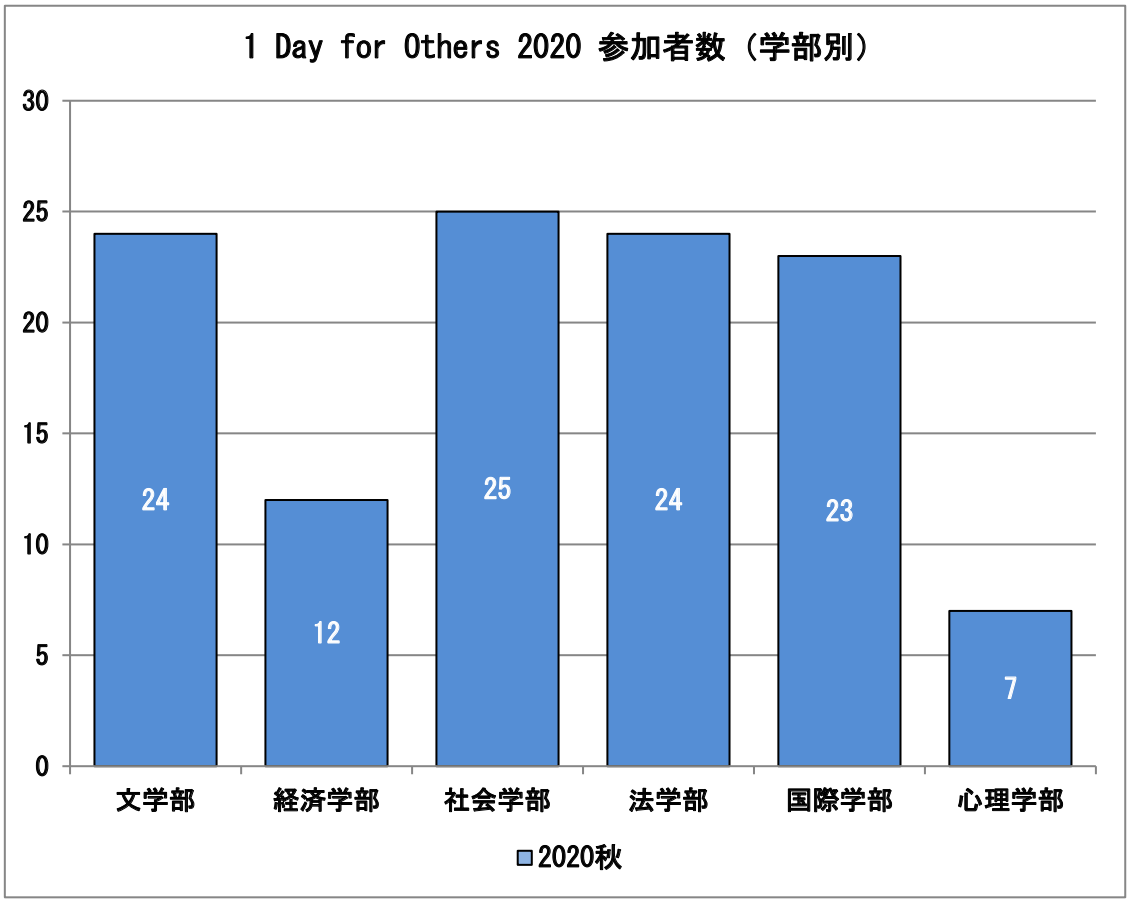
受入団体	ホープフルハーツ、益田どんぐりの会
実施日	第 1 回：2021 年 3 月 3 日(水)　14:00-16:00 第 2 回：2021 年 3 月 24 日(水)　19:30-20:30
参加学生	第 1 回：11 名(1 年生 5 名、2 年生 4 名、3 年生 1 名、4 年生 1 名) 第 2 回：5 名(1 年生 3 名、2 年生 2 名)
実施概要	新型コロナウイルスの流行に伴って、余暇活動が大幅に制限されることを余儀なくされている岐阜県の障がい者団体と交流した。第 1 回では、両団体の代表者より、その活動についてお話を伺った。第 2 回では、1 回目に参加した学生が交流会企画を考案し、参加者の地元の桜や観光名所を紹介するお花見会と、折り紙や歌での交流を行った。
参加者の声 サポート学生	今回の本プログラムにおいては今までの 1 Day for Others と違って、参加学生に企画段階から携わって頂き、どうしたら障がいのある方々がオンラインでも交流会を楽しんでもらえるかを考え、実施しました。自分達で創り上げていく事によって、さらに障がいについての考えを深める機会になったのではないかと思います。 そしてコロナ禍による外出自粛といったボランティアの実施が難しい状況の中でのこのプログラムの開催は大きな意義があったと思います。それは突然直面した大きな社会問題に対して解決していこうと負けずに努力する大切さです。これからもこのような形で学生が主体になって社会問題の解決に貢献していければいいと思いました。 （消費情報環境法学科 2 年）

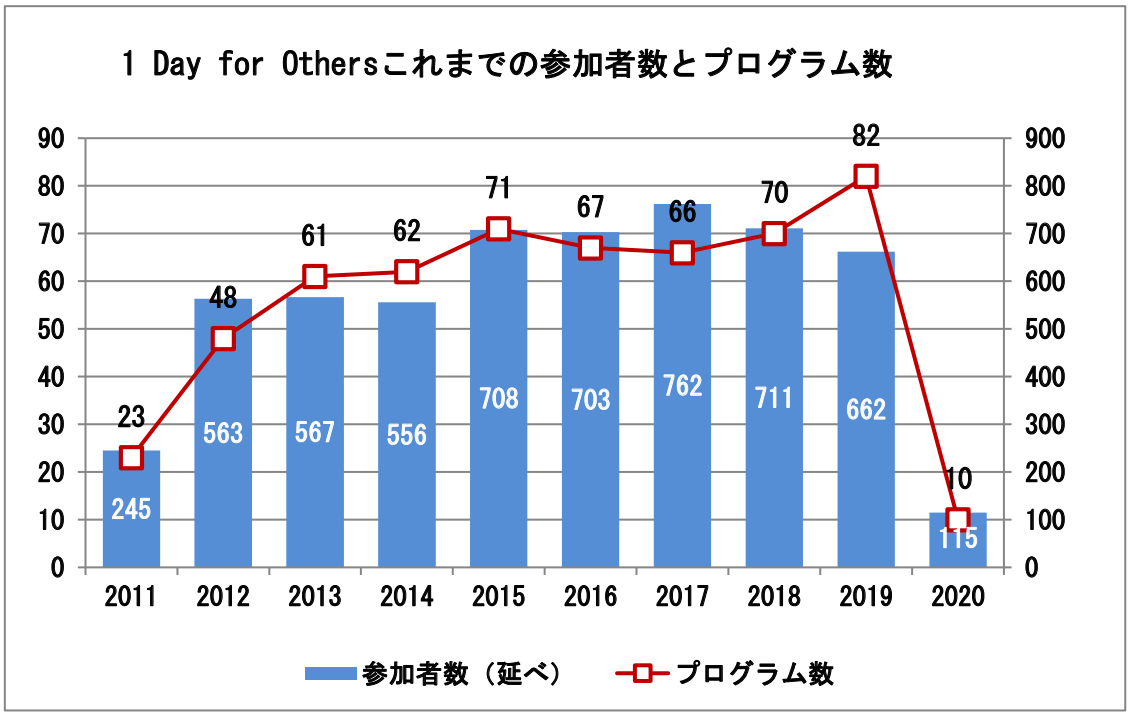


折り紙で作ったてんとう虫



自分で折ったてんとう虫を持って記念撮影


1 Day for Others 2020 参加者数（学部別）
30
25
20
15
10
5
0
24
12
25
24
23
7
文学部
経済学部
社会学部
法学部
国際学部
心理学部
2020秋


1 Day for Othersこれまでの参加者数とプログラム数
90
80
70
60
50
40
30
20
10
0
900
800
700
600
500
400
300
200
100
0
23
48
61
62
71
67
66
70
82
10
245
563
567
556
708
703
762
711
662
115
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020
参加者数（延べ）
プログラム数